

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000085		
法人名	社会福祉法人さわらび会		
事業所名	認知症対応型グループホーム常盤(あやめの街)		
所在地	愛知県豊橋市宮下町1番地の1		
自己評価作成日	平成25年12月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosyoCd=2392000085-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成26年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常盤は、静かな住宅街の中にあります。豊橋鉄道市内電車「豊橋競輪場前」徒歩10分と交通の便も良く、周囲には公園や喫茶店等があります。居室には、使い慣れた家具類を持ち込んで頂くことができ、明るく家庭的な雰囲気の中で生活していただけます。協力病院との連携もとれており、1ヶ月に一度の訪問診療があります。医療面でも安心・安全なサービスを提供できます。認知症対応型デイサービスと小規模特養が併設され、また社会福祉法人内に特養や包括支援センター、居宅介護支援事業所もありその人の状況や要望に合ったサービスを提供することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営法人は、複数の居宅系及び施設系の介護事業所を運営していることで、法人全体で利用者のニーズを把握しながら、その人に合わせた支援を行うことができるため、利用者、家族にとっては安心して過ごすことができる環境が整えられている。さらに、運営法人の母体が認知症の方への支援についても行われている大型医療機関でもあることで、ホーム利用者に対しても医療面における柔軟な支援が行われており、母体医療機関への受診についてはホームによる支援も行いながら、利用者の健康管理が行われている。また、ホームでは、認知症対応型通所介護と地域密着型特養を併設した複合型の介護施設でもあるため、地域の方との交流や行事についても施設全体で取り組みが行われており、施設全体で行っている行事の際には、地域の方の参加も得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	山本理事長の「認知症介護の三原則」という理念下、職員は業務に取り組んでいる。名札に三原則を入れ、意識付けを行っている。	法人で定められた「認知症介護の三原則」を、ホームの基本理念としており、毎朝、職員間で唱和をしながら、職員への理念の浸透に取り組んでいる。職員は、優しい気持ちと利用者への尊厳への配慮に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の喫茶店へ出かけたり、町内のお祭りへ参加したり、お神輿が施設前まで回ってくれた。近隣の方とは挨拶をする関係を築けている。施設のホールを町内会で使用していただいている。今後は行事等に参加して交流を深めたい。	地域との交流については、併設施設全体で取り組んでいる。そのうえで、夏祭りの開催をはじめ、ボランティアや中学生の職場体験の受け入れを行っており、ホームの利用者との交流につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では事例検討を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告を行い、地域の問題点についても話が出る。	会議については、併設施設との合同で開催されており、ホームからは活動状況や利用者の状態等の報告を行っている。また、地域の方との勉強会の機会もつくっており、出席者にホームへの理解を得てもらっている。	会議の性質上、併設の特養が中心の会議になっている面が否めない。グループホームのことを理解してもらうための、今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方とは、連絡を取り相談に乗って頂いている。	市担当者との情報交換について、ホームや併設施設を通じて行っており、不明点等がある場合は、助言等を得るようにしている。また、市内の介護事業所が集まる連絡会にも出席しており、情報交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全性を考慮して玄関やエレベーターの入り口には施錠がある。ユニット間は自由に行き来している。どのようなことが拘束にあたるかを良く話し合い、拘束をしないケアを意識している。	身体拘束を行わない方針のもと、ベッドから転落のリスクがある方についても、職員間で検討し、ベッド柵ではなく、マットを利用するなどの対応を行っている。また、職員間の定期的な振り返りの機会もつくっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会の開催を行った。どのようなことが虐待にあたるかを良く話し合い、意見交換を行って。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が成年後見制度を利用している。職員一人一人が制度を理解できるよう、勉強会に参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度行ってる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情の窓口について説明を行っている。意見が出る家族とそうでない家族がいるため、意見箱の設置を行った。今後は家族からの意見や要望を反映させていく。	家族会については、年2回、併設施設と合同で行っており、家族間の交流の機会をつくっている。意見や要望については、ホーム管理者の他に、施設長や相談員も対応できる体制がある。また、ホーム便りを毎月発送している。	家族からの意見について、家族が、より思っていることを率直に言っていたりするような、ホーム又は施設全体での取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて意見や提案する機会がある。定期的に職員個々に話を聞いてもらえる機会があると良い。	職員会議については、施設全体で毎月行っており、職員間で法人の方針等の確認を行っている。ホームからの意見については、随時、ホーム管理者や施設長に言うことも可能である。また、年1回、施設長による個別面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を見て法人内の異動等、その職員に合った環境や条件の整備を行っている。年に一回、法人代表者へメッセージを届ける機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にはさわらび大学があり、認知症のことや医療の事等様々な内容を学ぶ機会がある。個々の能力やレベルに合わせた研修に、より多くの職員が参加できる機会が増えると良い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊老協へ参加しており職員交流会が行われた。今後、より多くの職員が交流会に参加できる機会があれば良いと思う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に良くお話を伺うようにしている。傾聴し、生活歴から本人の生活を考慮したり、携わった職員からの情報を共有する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族やケアマネージャー等からよくお話を伺い、状況を把握するようにしている。家族が困っていること等に対し、共感すること。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった段階で、法人内の他事業所とも調整協力しながら、今必要なサービス利用をして頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室担当が中心となって関わってる。洗濯物たたみ等の出来ることはして頂いている。裁縫等の趣味を取り入れ、楽しんで暮らして頂けるような環境作りを心掛けている。利用者からもねぎらいの言葉が聞かれたり教わることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は居室でゆっくり過ごして頂いている。面会時や電話で普段の様子を伝えながら、こまめに連絡をとるようにしている。家族会では、職員と家族・家族同士においても交流を深め、施設を中心に関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、家族や知人の面会がある。また、ご家族様とお墓参りに出掛けたり、時々自宅へ戻られている。夏祭りでは家族や友人と一緒にゲームをする等、行事を通して昔を懐かしむ場面作りに留意している。	利用者の馴染みのある友人、知人との交流の機会や家族との外出や自宅で過ごすこともある。なお、インフルエンザ等のリスクがある時期は、家族との面会が限られているが、受診支援を通じた交流は可能である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごすことが多い方でも、時間をみて訪室し、声をかけている。利用者同士の相性や状況をみて、食事席を決めている。他ユニットの利用者同士の交流もあり、居室に引きこもらないよう声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、機会があれば様子を伺っている。また、ご家族からも相談があり応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に添えない場合もあるが、なるべく気持ちに寄り添ったケア・傾聴に努めている。これまでの生活歴から把握するように努めている。	職員は担当制で利用者の把握に取り組んでおり、利用者の誕生日の際には、利用者の思いや希望が実現できるように取り組んでいる。また、カンファレンスについては、月1回の他、毎日の朝礼の時間にも行うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式アセスメントを利用し、本人の生活歴や好み等の把握に努めている。何かあれば、その都度ご家族へ質問し対応を考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じてカンファレンスを行い、3ヶ月に1度モニタリングを行っている。また、朝の申し送り等で日々の様子を報告し合い、ケアについて話し合っている。各ユニットにある申し送りノートに気づきを記入し、情報を共有する。	介護計画については、職員による毎日のチェックを通じて、1か月で利用者の状況を含めて取りまとめており、3か月毎のモニタリングにつなげている。そのうえで、職員間で変化の把握を行いながら、3か月毎の介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあれば、申し送りノートや生活記録へ記入している。出勤時には目を通すようにして、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況が変化したときには、ご家族へ連絡を入れている。状況に応じて月1回の訪問診療にご家族に立ち会って頂いている。時間外の面会にも応じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容師さんに依頼し、有償ボランティアという形で散髪に来て頂いている。月に1度、書道の指導ボランティアに来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の受診。月1回の訪問診療がある。協力病院以外の受診も、主治医の指示や家族の協力を受け、ひとりひとりに合った医療を受けている。	運営法人の母体が医療機関でもあるため、定期的な訪問診療が行われており、利用者の体調等の管理が行われている。また、受診に際しても、母体の医療機関にはホームから支援が行われているが、他科受診については、家族による対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や変化がみられたときは、訪問看護の看護婦や協力病院へ連絡し、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も様子を見に伺ったり、ご家族へ連絡し状況の把握に努めている。病院関係者とも連絡をとり、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りは行っていない。重度化した場合は、ご家族や法人内の特養や病院関係者とも連絡を取り合い、相談している。	ホームでは、看取りを見据えた支援については行わない方針であるが、家族とは法人全体で支援ができるように、段階に応じた話し合いが行われている。また、施設内で研修会の機会もつくられており、職員の資質向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誰でも対応できるよう、スタッフルームにマニュアルを掲示している。定期的に勉強会を開催したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。施設に防災ラジオを設置しており、早い段階で災害に備える。	避難訓練については、施設全体で行われており、通報装置を使用した訓練も実施されている。運営推進会議を通じた地域の方との話し合いも行われている。また、備蓄品については、ホーム内にも確保されており、災害時に備えている。	職員間で、通報装置を使用した訓練の継続した実施や、併設施設との連携、地域の方との協力関係の構築の継続に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話の否定はせず、丁寧な声かけ、言葉遣いを常に気をつけて対応しなくてはならない。難しいが、職員間で気づいたことは話し合っていきたいと思う。 居室に入る前には必ずノックをする。	ホームでは、毎週火曜日に担当者を決めて、職員に対する「接遇に関するアンケート」を行っている。それらの活動を通じながら、日常的に振り返るように取り組んでいる。また、管理者より、職員の対応で気になった際には、注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話から、本人の気持ちを聞き出すようにしている。 自己決定の為に時間をおいたり、答えが見つかるような聞き方をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせることが難しいが、その日の状況や本人の状況をみて、できるだけ希望に沿うようにしている。 施設に入る前の生活を知り、継続できる支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方には起床時や入浴時に衣類を選んで頂いている。季節や好みに合った服を着て頂けるように声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳、もやしのひげ取り等はして頂いている。普段の食事は一緒に摂っていないが、外食行事等は一緒に食事を摂れるようにしている。誕生会や季節の行事では、好きな物や普段あまり口にできない物をお出ししている。	法人で決められたメニューと配達された食材で、職員により調理が行われており、下ごしらえには、利用者の参加もある。下膳については、利用者に行っていただくように、職員からも促している。また、職員間で体制をつくり、外食も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状態(糖尿病や好み等)に応じて、主食の量を調整したり形態を変更している。食事量は個人別に記録している。 体調に応じて、水分はこまめに摂って頂くように声かけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。 個々の状況に合ったケアを行っている。 必要に応じて、協力病院の受診を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は排泄表を記入、時間を見て声かけを行っている。 いつもと違う様子の時や、食事・おやつ前等にもトイレの声かけを行っている。	職員は、利用者の排泄状態を考えながら、トイレへの声かけのタイミングや、薬剤の使用の有無についても、一人ひとりに合わせた検討が行われている。取り組みの結果、昼と夜で、パンツを使い分けている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく水分、乳製品を摂って頂くようにしている。便秘症で下剤を服用されている方も、排泄表をつけて排便状況に応じて調整している。毎朝体操の時間を設けており、全員参加して頂けるよう声かけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間は、緊急時の対応と職員の体制を考慮して行っていないが、清拭や足浴で対応している。 可能な限り、本人の希望に沿うよう心掛けています。	入浴については、月曜から金曜日まで対応しており、利用者が定期的に入浴できるように努めている。また、ホームには、重度の方にも対応した機械浴槽が設置されているが、職員2人体制で、一般の浴槽への入浴介助に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にはパジャマに着替えて頂くよう声かけしている。 室温や明るさ、物音に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診や訪問診療で出た薬の情報は職員に回覧し、服薬表を作っている。 服薬時は必ず名前、日付の確認、手渡しし、最後まで見守るようにしている。 副作用についての勉強会を行ってきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って暮らして頂けるよう、出来ることはして頂いている。 日々の関わりの中から、どんなことを楽しまれるのか、見つけていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	風邪やインフルエンザ等の感染症が流行する時期は、感染症対策のため外出は控えている。ご家族の協力も得ながら、暖かい時期は少しずつ外出の機会を増やしていきたい。	ホームでは、インフルエンザのリスクがある時期は外出を控えている。一方、季節の良い時期には、利用者が外出できるように、職員間で意見や企画を交わしながら、外食の機会をつくる等、可能な外出に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけ、支払いをして頂けたら良いと思う。状況に応じて、1000円程度のお金を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使用できる電話はないが、希望があれば応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りを作ったり、居室の入り口に飾ったりしている。季節や時間に応じて、室温や光の量を調節している。	共用空間については、十分な広さを確保されていることで、利用者は、リビングでゆったりと過ごすことができる環境が整えられている。ホーム内の壁は落ち着いた色彩にしている他、ホーム内の雰囲気を損ねないように作られた飾り付けが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテレビ前にソファがあり、テレビを観たり談笑しながらゆっくり過ごしている方もある。 居室以外で一人になれる場所がないため、家具の配置等を考えていきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には表札がある。 入居時に、馴染みの物を持って来て頂くよう声かけしている。	居室内には、専用のトイレが設置されており、利用者のプライバシーにも配慮されている。さらに、居室の壁紙の色彩についても全て異なっており、落ち着いた雰囲気である。また、利用者が持ち込んだ家具も置かれてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの状態に合わせた環境作りに心掛けている。 床に不要な物を置かないようにし、安全に移動できるよう工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 認知症対応型グループホーム 常盤

目標達成計画

作成日: 平成 26年 3月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	自己 10	職員とゆっくり話す機会が無いとの意見があった	入居者、ご家族、職員とが一緒に交流できる行事を開催する	ご家族へ、誕生会や季節毎の行事への参加を積極的に呼びかける	3ヶ月
2	自己 48	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、気分転換が、あまり出来ない	クラブ活動を増やす (アレンジフラワー、楽器等)	リスクの少ない時期にボランティア等に来て頂き、楽しい時間を過ごして頂く	3ヶ月
3	自己 49	入居者が戸外の行きたいところへ出かけていない	少人数で出かける工夫をする	外出のリスクの少ない時期に、近くのスーパーや喫茶店へ少人数・短時間で、出かける	3～4ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。